



NDYS in Action, Newsletter

Natural Disaster Youth Summit Monthly News

Vol#3

February 27, 2008

編集(P1)

加藤言人, 神戸

世界中と意見を交換し合おう!

トピック

生徒達の防災に関する知識を世界中から集めよう
NDYS 展&フォーラム



NDYS Youth Editors

NDYS 展 & フォーラム

来る3月23日神戸で、フォーラムが開催されます。このフォーラムはNDYSによって主催され、世界中の生徒達が自分達の防災学習の成果を発表する場になります。トリニダード・トバゴ、台湾、イラン、トルコ、そして日本などから、生徒達が防災学習で得たものを、発表します。パネルディスカッションも同時に行われ、各地の情報交換をすることになる予定です。

また、NDYS 展も同時期に開催予定です。期間は3月11日~30日です。NDYS が世界中の生徒達をインターネットによってつなげることによって、災害安全マップの作成や防災バッグ作りなど、災害を防ぐ試みが各地で行われました。今回の展示は、私たちにとって、その世界で行われた試みを知ることが出来るいい機会です。

NDYS 展とフォーラムはともに、神戸の人と防災未来センターにて開催されます。このイベントは、4月に開催されるトリニダード・トバゴでの会議に向けての、NDYS の一つのステップとなります。

世界の教室がネットワークして取り組む防災教育の現在。

企画展
世界の子供たちが協働する防災学習プロジェクトの成果発表

災害安全マップ & キッズ防災バッグ展 2008

テーマ：地球温暖化と防災

平成20年(2008年) 3月11日(火)~3月30日(日)

会場：阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター 防災未来館 1階ロビー

NDYS

参加者募集!!
世界の子供たちが考える『地球温暖化と防災』
3月23日(日)13:30~16:00 会場：防災未来館1F ボイダンスルーム

1995.1.17 2008年1月19日 防災未来館 リニューアルオープン!

<http://ndys.jearn.jp/hatkobe/2008/index>



NDYS フォーラム 2007 (昨年)

このフォーラムと展示は、神戸で毎年同じ時期に開催されています。NDYS の生徒にとって、世界中の現状を知ることはとても大切なことです。そして、このイベントはまた、毎年行われる Natural Disaster Youth Summit (防災世界子ども会議) への助走でもあります。

私は、去年フォーラムに発表者として参加することが出来ました。私にとって、災害安全マップの発表をすることができたのは、とても大切な経験です。私たちにとって、防災について世界中と意見を交換しあう機会はいくらもありません。「他人」の意見を知ることによって、私たちは「自分」の意見を育てることができます。「ユース(子ども、若者)」は、私たちの人生の一部分に過ぎません。だからこそ、私たちは次の世代へ自分達の経験を伝えなければならないのです。NDYS のような組織には、情報交換が欠かせません。過去の経験を知ることによってはじめて、私たちは新しい、さらに発展した意見を出せるからです。何も無い状態からはじめるのは、「ユース」にとっていいとはいえないと思います。「ユース」は、あまりにも短い期間で過ぎ去ってしまうから。意見を交換する機会が、もっともっと増えることを期待しています。それでこそ私達、「ユース」はもっと多くの新しい意見を発信していくことができると思うから。



編集 (P2-4)
Sergio Daniel Paz;
Salta-Argentina.

トピック

自然災害と防災

Supporting lives (page 1)

Rain in Africa アフリカでの豪雨

アフリカの南部に位置する4つの国で、豪雨が洪水を引き起こし、被害を食い止めるのに8900万ドルもの予算を必要としました。マラウイ、モザンビーク、ザンビア、ジンバブエで、45万人近くもの住民が家を失いました。さらにこの地域では、4月の終わりにサイクロンの襲来を控えています。

モザンビークはその中でも最悪の被害を受け、影響を受けた68万人の住民の支援に、3500万ドルの予算を必要としました。また、マラウイは、152万人の被災者の支援に、1700万ドルを費やしました。700近くのコレラの症例が報告され、状況は悪化する可能性があります。

洪水は、世界でもHIVの感染率が非常に高い4国がある地域を直撃しました。その状況は、洪水による失職や放任により、更に悪化することが予想されています。



人々は、目的地に行くことができません



親達がサイクロンによって破壊された学校を再建しています。

マダガスカル

マダガスカルの当局と援助機関はサイクロン Fame の残した被害に取り組みはじめました。改善の余地はありますが、この反応は、2007年のサイクロンが価値ある教訓を残してくれたことを表しています。

支援を最も必要としているのは、住居を失った人々です。彼らは全てを失いました一家、食糧、そして様々なものまでも。もちろん、他にも支援を必要としている人々はいます。しかし、最優先しなければならないのは、家を失った人々への支援です。

政府は、数ヶ月前にサイクロンを想定した訓練を行っていたため、被害を軽減することにそれを役立てることが出来ました。

川沿いに住む、多くの住民達のことは大きな問題です。彼らは、優先的に対応されました。彼らは警告が解除されると家に帰ることが出来ますが、それは必ずしも安全であることを意味しません。

Sources: www.irinnews.org



Flood problem in TnT , Caribbearn

洪水問題—トリニダード・トバゴ, カリブ海地域

2006 年、Making では、大災害が発生しました。被災者の人々は、この日のことを、そして強い地域の連帯の中で活動したことを、忘れることはないでしょう。下記に、NDYS の iEARN-Trinidad and Tobago の一員である Andy Paul による文章を掲載します。

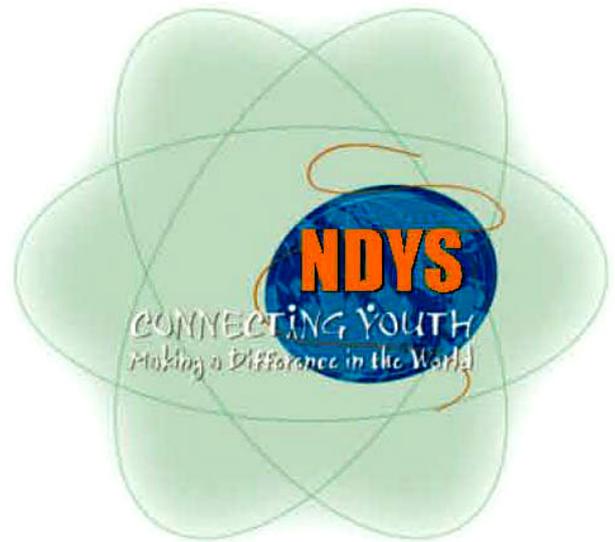
2006 年の 13 日の金曜日に発生した大豪雨により、Making やその近郊のコミュニティは大きなショックを受け、災害のもたらした結果に大きくうろたえました。濁流はたくさんの村を水中に沈め、住民は助けをもとめました。

道路は分断され、コミュニティは孤立しました。10 フィート（約 3 メートル）の水の中に沈んだ地域もありました。幸運なことに死者はいませんでした。家畜は失われ、住居や建物に大きな被害がでました。人々は様々な器具、電気製品、毛布、食料、学校用品などを失いました。多くの場合人々は全てを失い、食料や衣服、他の必需品について、家族や政府に頼るしかありませんでした。

約 300 人の人々が負傷しました。地域の一部では 4 日間の間陸の孤島となり、食料、水、毛布などが災害を大きくしないために、分配されました。

この経験は被災地の人々に大きな影響を与え、地域社会（コミュニティ）の連帯が生きるためにとても大切な手段であることを自覚させました。私たちはやっていいことと、いけないことについてもっと注意する必要があります。私達の水路へのがれきの不法投棄は、どんな形であっても、止めなければなりません。全て水路が常に綺麗な状態である必要があります。コミュニティは積極的に、被害を最小限にとどめるための基準を設定する必要があります。住民は、脆弱性と許容量について、見積もる必要があります。それが評価されてから、行動計画を立てるべきです。そのようにすれば、私たちは自分達のコミュニティを救うことができ、どんな危機がこの先おとすれようとも、それに対応できるようになります。さあ、みんなで私達自身のコミュニティのための行動計画を作りませんか。

これらの場面がカメラに収められました。ここに、彼らが夢にも思っていなかったことに立ち向かい、生き永らえようとするコミュニティのもう一つの例を見ることができます。



"Communication saves lives!"



編集後記: 今回は、自然災害に備えることの重要性を示す、とてもよい例を見ることが出来ました。もしマダガスカルの人々がサイクロンに備えていなければ、被害もっと大きく、最悪なものになっていたに違いありません。私は、全ての国々が色々な機会を利用し、どんな自然災害にでも最良の対応ができるように国民を教育すべきだと思っています。

■ 詳しい情報については下記までご連絡ください ■

ndys@jearn.jp <http://ndys.jearn.jp/>

NDYS 事務局：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 ひょうご国際プラザ活動支援室気付

NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN 事務所内